

《担当者名》道信良子（非）[michinor@fpu.ac.jp]

【概要】

生殖と出産を補助する医療について、日本と世界の事例をもとに検討する。生殖・出産を補助する医療は、当該社会の医療制度や文化の影響を強く受けている。出産・育児を担う家族のあり方、出産後の子育てや子どもの価値づけ、医師と患者との関係によっても、生殖にかかわる現象は、多様な様相を呈する。医療の現場では、生殖補助医療の目覚ましい発展が、子どもを望んでいる多くの人たちに希望をもたらしている。その一方で、妊娠・出産が人の手によって操作できるようになることに対する慎重な意見も根強くある。当事者の女性にとっても生殖補助医療による妊娠・出産は身体的、経済的な負担を伴い、授かった子どもの親子関係をめぐる問題が生じることへの懸念がある。生殖と出産を補助する医療の発展は、人間とは、子どもを産むとは、個人や集団が健康に幸せに生きることはどういうことかなどについて改めて考える機会となるだろう。

【学修目標】

人間の生殖と出産、生殖補助医療をめぐる社会、文化、倫理的課題を説明できる。
 人間の生殖と出産、生殖補助医療の社会・文化的多様性を、国内外の事例に即して説明できる。
 人間の生殖と出産、生殖補助医療をテーマに、人間の生命や健康について考察することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	生殖補助医療をめぐる社会、文化、倫理的課題	授業内容:人間の生殖と出産、生殖補助医療をめぐる社会、文化、倫理的課題について配布資料をもとに議論する。学習課題:事前配布資料を読む。	道信
3) 4	生殖補助医療の文化的多様性 - 日本と世界の事例	授業内容:人間の生殖と出産、生殖補助医療の社会・文化的多様性を、国内外の事例に即して検討する。学習課題:事前配布資料を読む。	道信
5) 6	生殖補助医療の発展と人間の生命・健康	授業内容:人間の生殖と出産、生殖補助医療をテーマに、人間の生命や健康について考察する。学習課題:事前配布資料を読む。	道信
7) 8	生殖医療文化論、総括	授業内容:生殖医療文化論のまとめの発表を行う。学習課題:発表の準備、課題レポートに取り組む。	道信

【授業実施形態】

遠隔授業
授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

講読のプレゼンテーション（40%）、討議（30%）及びレポート（30%）を総合評価する。

【教科書】

その都度プリントを配付する。

【参考書】

その都度プリントを配付する。

【学修の準備】

事前に配布するプリントを読んで授業に参加すること。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

<看護学専攻>

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

<臨床福祉学専攻>

本科目の内容は、臨床福祉学における高度な専門性と研究能力を修得するという臨床福祉学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

ロマ・ポリシーに適合している。